

あなたの保育のヒントになるかもしれない情報誌

スイッチ!



2022スイッチ!フォトコンテスト大賞作品
沖縄県ひまわりっ童保育園「おいしいね!」

特集1

青年部会員園紹介1

ひので保育園 (熊本県支部)

特集2

青年部会員園紹介2

元岡きらきら保育園 (福岡県支部)

特集3

活動委員会インタビュー

幼児教育保育委員会

2023年号

vol.8

日本保育協会青年部広報誌

熊本県支部

ひので保育園

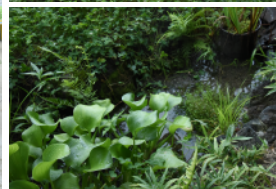
園舎テラスの鉄柱に
這わせるようにブドウ
が実っている。木
造の園舎の色合いに
緑のアクセントが映
える。



筆文字での手書きの
クラス名が手作り感
やぬくもりを感じさ
せられる。また各園
庭は、日の出にちな
んで、太陽をモチー
フとした名づけがさ
れている。



ピオトープや築山のように自然を生かした入口部分と変わり、園庭の奥
部分は、遊具が設置されており、人工的な園庭が姿をのぞかせる。



園に入ってすぐの園庭には、小川
の様なピオトープや、自然を生か
した築山がみられる。

太陽の名前を冠した
暖かく、光に包まれた保育園

熊本市内から高速道路で2時間弱、
八代市の球磨川（くまがわ）河口に佇
む「ひので保育園」は、子どもたちの
未来を輝かせる温かな巣窟だ。この地
域は、明治時代の干拓によって開拓さ
れた土地で周りには田んぼが広がって
いる。ここでは、まるで自然と融け合っ
たような教育環境が魅力のひとつ。

モンテッソーリ教育を心に刻み込
み、子どもたちの個々の成長を大切に
育てている。保育士たちは熱い視線で
子どもたちの興味や才能を見極め、適
切な学びの材料を巧みに提供する。

園内は知育玩具や感性を刺激する
素材で溢れ、子どもたちは好奇心を
掻き立てられる日々を送っているこ
とだろう。

2019年に建て替えられた園舎
は、木材が使用され、入り口から
7.5m伸びるアプローチには、ブド
ウの木がたわなに実を付けていた。
また自然豊かな築山や各所に植えら
れた実のなる木、ピオトープの魚や
木工小屋など子どもたちが季節を感
じ、自由な発想を膨らませる姿が目
に浮かぶ。また、廊下に面した窓ガ
ラスは、陽光をふんだんに採り入れ
ることがで、どんな天候でも子ども
たちの保育室はひのでの様に明るい。



太陽の丘という意味である、あるばさーらと名づけられたホール。採光が多く、まさに名前の通りとなっている。



園庭側がほぼ全面ガラス張りという、保育園。雨の日や曇りの日でも、子どもたちは暖かな光に包まれている。



給食時のようす。おひとり様席などもあり、常に自立心を向上させるような働きかけがあり、子ども達も自主的な動きが目立つた。



区切られてはいるが、ガラス張り、設置されている家具も低く、隣のクラスまで見渡せる開放感のある空間になっている。



給食時、子どもたちは、座る位置を自由に決めることができる。特に、子どもたちの意志によっておひとり様のように一人で食事をする席もあり、自立心の育成にも関わっている。



特注品である三面使用のできる椅子。上に返せば年少児用、下に返せば年長児用、背面を天井にすれば大人も使用できる。

DATA ひので保育園

熊本県八代市三江湖町 1 4 2 7

学童や子育て支援施設も併設されており、広々とした第2園庭には、野球やソフトテニスに興じる小学生の姿が見られた。

この地域の子育てを支える中心的な施設であることが良くわかる。

ここ、ひので保育園では、童心溢れる笑顔が絶えない。子どもたちが心を許し合い、友情を育む姿に、温かな風を感じることもできることだろう。



福岡市支部

元岡きらきら保育園



テラスデッキから吹きあがる噴水が非常に遊び心を感じた。
夏場は子どもたちが喜んで遊ぶ姿が目に見えよう。



近代的な国道バイパスが目の前を通っているが、自然も感じさせる。

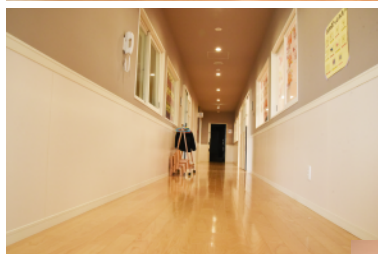
元岡きらきら保育園の園庭は、子どもたちの遊び心をくすぐる場所。入り口には、ささやかながらも多数の植物が栽培されている菜園スペース、カラフルな遊具や特徴的な構造物の噴水が遊び心をくすぐる。

元岡きらきら保育園は、福岡市西区にある新設園であり、九州大学の移設に伴い急速に発展を遂げている地域でもある。まさに自然と都会の交差点となるような場所。

自然と都会の交差点 〜新しい街で〜



特徴的な意匠を施された水飲み場。
不均一なタイルの並びに不思議な温かみを感じる。



あたたかみのある木の腰壁とパステル系の配色が施された壁紙の組み合わせと、各所に設定された遊びコーナー。環境構成が展開しやすいように移動しやすい家具にもこだわりが見える。

保育室だけではなく、職員用や来客用のスペースにも壁紙等で遊び心をにじませ、来園した人々の目を楽しませてくれる。

インテリアとしてもかなり印象的な廊下の意匠。海外の建築かと錯覚するようなオシャレなデザイン。



ランチルーム兼ホールにある大きな窓ガラスからは遠くの山々を一望でき、かなり開かれた環境である。また、給食時には一番人気の場所でもあるという。



DATA

元岡きらきら保育園

福岡県福岡市西区大字田尻 2063-1

この保育園は子どもたちの成長と幸せな日々を支えるために、魅力的な園舎、楽しい園庭、そして居心地の良い保育室を提供し、福岡市の保育を牽引していく施設となっていく予感を感じさせた。

外観は清潔感あふれる白を基調とし、希望に満ち溢れる園生活を期待させる。園舎内部は、まるで海外の保育園なのかと思うような意匠が施され、カラフルで明るい色調の壁紙で飾られ、温かみのあるスペースが、子どもたちに笑顔を提供し、楽しみながらも遊びこみに集中できるコーナーが設置されている。

活動委員会 委員長インタビュー Vol.1

職員から子ども、 子どもから保護者へ

滋賀県支部
あさひこども園 園長
幼児教育保育委員会委員長

高尾 宗宏
たかお しゅうこう

—どのような保育を目指していますか？

どんな保育にしても、まずは職員ありき、な所から始まっていると思っています。ルール設定はもちろんあるし、何でもあります。職員さんの保育で気になります。職員さんの保育で気になる部分があっても基本はとやかく言わないようにしています。

どこの園さんでもそうだと思いますが、できるだけ給料を上げて、できるだけお休みをとっていただいて、できるだけたくさん気持ちよく働いてもらいたいという気持ちがあるんです。その部分を、限りある予算の中でどこまでできるか、を実践しています。そうすると、自ずと、子ども達も楽しんで園で過ごしてくれるし、楽しんでいられる子ども達の姿を見ると保護者の方も喜んでくれる、割と上手いこと行く。

以前は、保護者目線の保育って結構多くて（大規模な行事等を目標とした設定保育）子どもたちが頑張っているところを見せるっていうのかな、その頑張りが学びであるとフォーカスが当たることも多いけれど、保育っていう

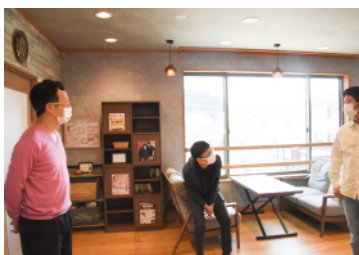
のはけしてそこだけではない、と言う所から、今度は子ども目線にフォーカスが当たる保育が多くなってきているように感じます。子どもの社会性っていうか、チルドレンファーストっていうのでしょう。しかし、行き過ぎると現場を担当している保育士に負担がかかりすぎてしまうから、どう働きやすくできるか。そこからどう、子どもたちの保育に還元していつてもらえるのかみたいな保育が好ましいと思っています。

できる限り、職員には仕事をお願いしようと思っています。保育士に分野別に担当を分ける園さんはすごく多いと思っていますが、さらに備品や経理みたいな部分までお願いしています。もちろん、予算的にいけるのか、などを考えるのは僕の仕事ですが。

そこまで保育士さんたちが考えることによって、保育にも違う視点をいられるんじゃないかなと思っています。保育士さんたちに仕事を振る時には、トップダウンというよりは、「お願いします」「感をベースにしています」。

保育士さんたちがいないと僕たちの園経営は成り立ちません。なので、当然私たちは、「働いてもらっている」という根本は当たり前のもので持つて

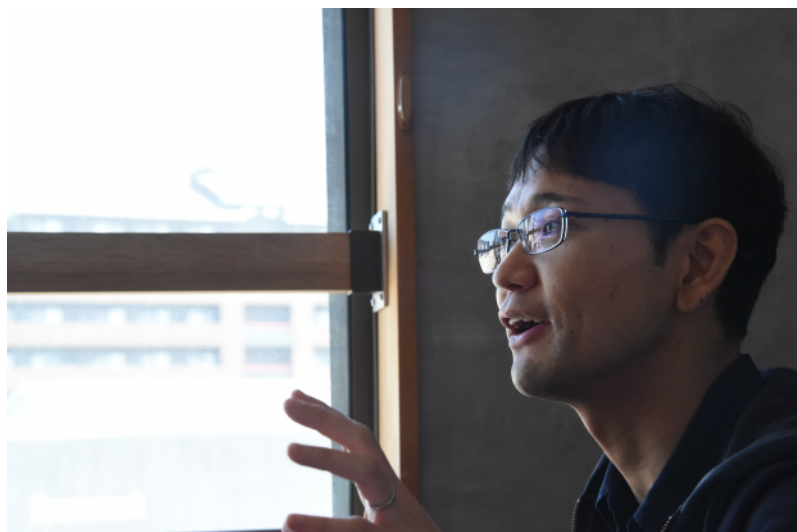
いたいですし、普段の言動や、休憩室、待遇などで形にしています。でも、現状では満足してなくて、もっともっと違う形で表現していきたいと思っています。そういう部分が子どもたちにも還元していつもらえればいいな、と。



インタビューを受けていただいた、園内にある職員用休憩スペース。まるで、おしゃれなカフェラウンジのよう。ここで休憩時間中、あさひこども園の職員は思い思いの時間を過ごすことができる。



休憩室に設置されたお菓子コーナー。さすがに食べ放題とはいかない。



—保育士とコミュニケーションはどうやってとっている？

距離感というか、そういうものは慎重に取り扱っているつもりです。食事会や懇親会で、コミュニケーションを取るといふ園さんはすごく多いと思います。ただ、そういう集まりが好きではない、得意ではないという方もいる。そういう部分から、会自体に参加することに義務感を覚えてしまうと、きつと嫌になってしまうのでは、と。すべての懇親の機会を無くすわけではないですが、なるべく保育中、もしくは仕事の時間内で懇親ができる機会を増やしているところです。

また、職員採用に関しても、園ごとにその園独特の色味があると思うんですよね、そういう色味に合う人を採用しています。同じような色味を持っている人が集まると、自然に似たような人たちが集まってくる、そういう空気感を大事にしています。自然と人間関係のトラブルも減っていくので働きやすい環境づくりに一歩近づいているのではないかな、と思っています。



あさひこども園の園舎。
下記写真が、職員休憩用として建設された別棟。



— 幼児教育保育委員長として

現在、幼児教育保育委員会では園見学チャンネルというYouTubeの動画チャンネルを運営しています。

このチャンネルはどうして始めたのかというと、園を運営している中で、自分が感じていた事が発端となっています。保育士さんたちには研修に参加してほしいですし、学びを持ち帰っていただきたいけれど、基本はやっぱり現場の保育。日中、保育をしている時間に研修で人員を割くという行為自体が、職員の参加を限定してしまっていて、それを補うのに、土日、休日を使用して補完しようとする。

そういうサイクル、僕はあまり好きではなくて、負担に感じてしまう人もいるのではないかと。それであるならば、もっと時間を限定せずに、受けられる人間も限定せず、空いた時間にカジュアルに学べる場があってもいいのではないかと。少しでも職員のプラスになるのなら、という考えから始めたのが園見学チャンネルです。それが委員会から波及して、少しでも多くの人に見ていただいで、一つでも二つでも新しい気付きを持ち帰ってもらいたいと思っています。



「この園さんのおもちゃがいいな」とか、「こういう環境づくりがあったのか」とか、そういう保育にプラスになることが積み重なれば、大きな変化につながるはずなので、そこを目指して続けていきます。動画の数も派生リンクも合わせるとすでに50本以上になっていて、園に就職したい保育士にも、園に子どもを入園させたい保護者にとっても参考ができる部分は大きいと思っています。園内に足を運ばないと見ることでできない部分が、動画の中で見ることでできます。それでいろんな判断の材料になるとか、プラスに働く部分も多いです。現に、園見学チャンネルを見て、就職や入園につながった事例もあります。

ただ、園見学チャンネルの運営が委員会活動のメインになってしまうと、それはそれで面白みに欠けるので、子どもとのかかわりをテーマにした動画も作成していきたいな、と考えています。

特に熊本大会の分科会ではシチュエーション別に、子どものアクションに対してどうすべきか、人によって対応が結構変わってくると思っています。

その違いを、どういう関わりをして、どういう解決をしたのか、色々な人の考え方を聞きながら動画を楽しめたら、そんな分科会にしたいと思っています。



園見学チャンネル
QRコード

<https://www.youtube.com/@user-fi5vc9ul6n>

